

特定外来生物

ナルトサワギク

真正双子葉類 キク科

*Senecio madagascariensis*生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥

類

は

虫

類

両

生

類

魚

類

甲

殻

類

ク

モ

類

貝

類

植

物

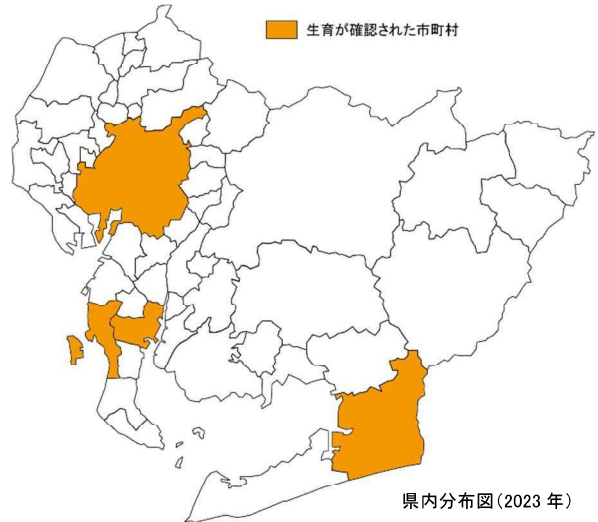
基礎情報

原産地

- ・マダガスカル～アフリカ南東部

現在の分布

- ・世界では、オーストラリア、南北アメリカ、南アフリカ等に移入分布。オーストラリア東部では牧草地への侵入が問題となっている。
- ・国内では、本州(福島県以西)、四国、九州に分布。侵入して間もないが、急速に分布を拡大している。
- ・県内では、名古屋市、豊橋市、常滑市、半田市の市街地や埋立地などで散発的に確認されている。



侵入の経緯

- ・1976年に徳島県鳴門市瀬戸町で確認された。その後、兵庫県や大阪府で急速に広がった。
- ・埋立地の緑化用にアメリカのケンタッキー州から輸入されたシロツメクサやシナダレスズメガヤの種子に混入していたと考えられている。

形態

- ・一年草または多年草。
- ・茎は地際で横に倒れ、多数枝分かれして大きな株を作りながら直立して、高さ30～70cmになる。根は浅い。
- ・葉は互生(茎の1つの節に1枚ずつ方向をたがえて葉がつく)。長さ3～9cm、幅1～1.5cm。先の方がとがり、基部がやや広い。葉に柄はなく、つけ根が茎を抱いているものもある。縁に不揃いの鋸歯(ギザギザ)があり、鳥の羽のように裂けるものもある。
- ・他のキク科植物と同様、小さな花(舌状花と管状花)が多数集まった直径2～2.5cmの頭状花を、枝分かれした茎の上に上向きに多数つける。舌状花は通常13個で黄色、中心の管状花は黄色。
- ・タンポポのような綿毛(冠毛)のある果実(種子)をつける。



生育環境

- ・空地、道端、造成地、埋立地等に生育し、日当たりの良い場所を好む。
- ・海外では牧草地にも侵入している。

生態・ライフサイクル

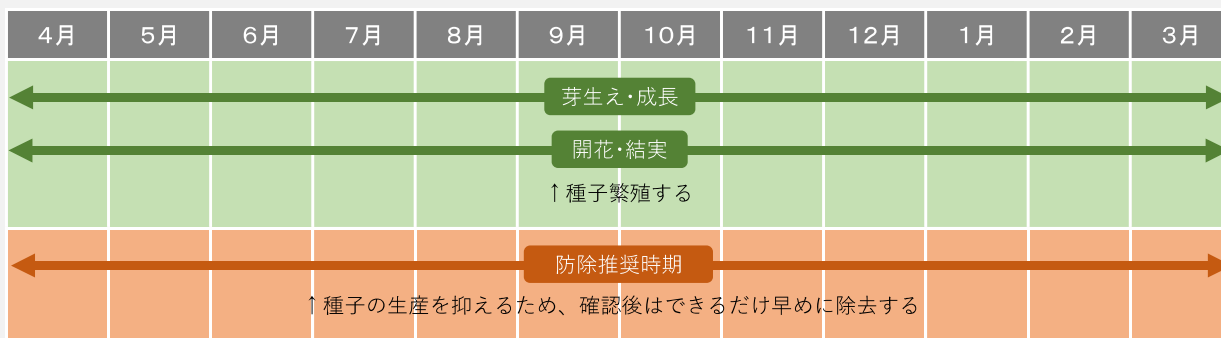
- ・ほぼ一年中、開花・結実し、花と果実(種子)が一緒につく。
- ・繁殖力が強く、生長段階の早い時期でも開花・結実する。海外では、発芽後 6～10 週で最初の花が咲くとの知見がある。
- ・タンポポのような綿毛のある果実(種子)をつけ、風により拡散させる。
- ・主に種子によって繁殖するが、茎の断片からも栄養繁殖し、根茎が残っていると容易に再生する。
- ・馬や牛などの草食動物に有毒なピロリジジンアルカロイドを含有する。
- ・牧草類へのアレロパシー作用(他の植物の生育を阻害する化学物質を分泌する性質)が示唆されている。



(写真提供: 瀧崎吉伸氏)

埋立地で繁茂するナルトサワギク

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・黄色の花をつける主な類似種として、サワギク(在来種)、サワオグルマ(在来種)、ハンゴンソウ(在来種)、ノボロギク(外来種)がある。

本 種	識別のポイント	類似種	識別のポイント
サワギク (在来種)	・山地の木陰に生育する。 ・黄色の舌状花がある。 ・葉は羽状に深く裂ける。	ハンゴンソウ (在来種)	・山地の湿った草原に生育する。 ・黄色の舌状花がある。 ・葉は羽状に深く裂ける。 ・高さ 1～2m になる。
サワオグルマ (在来種)	・日当たりの良い山間湿地に生育する。 ・黄色の舌状花がある。 ・葉は狭い楕円形、羽状に裂けない。	ノボロギク (外来種)	・道端や畑に生育する。 ・舌状花がなく、黄色の筒状花がある。 ・葉は羽状に裂ける。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・繁殖力が強く、群落を形成して在来植物の生育場所を奪う。大量の風散布種子をつくるため、急速に分布を拡大するおそれがある。
- ・有毒成分を含むため、採草地や牧草地に侵入した場合、家畜に中毒症状を発生させるおそれがある。
- ・本県での確認事例はまだ散発的であり、それほど広がっていないと考えられる。発見次第、除去すれば根絶は可能と思われる。



ナルトサワギクの群落

生育・被害の確認方法

- ・空地、道端、造成地、埋立地等など、本種の生育の可能性がある場所を踏査し、生育個体を目視により確認する。ほぼ一年中、黄色の花を咲かせ、タンポポのような綿毛のある種を飛ばしているため、いつでも目視確認が可能。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



ナルトサワギクの花と種子

防除方法

- ・侵入の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効
- ・手作業による除去が一般的

推奨時期

- ・ほぼ一年中、開花・結実しているため、どの時期も効果があると考えられる。
- ・種子の供給を抑制するため、確認され次第、できるだけ早期に対策に着手することが望ましい。
- ・今後、本県での明確な開花・結実のピークに関する情報が得られた場合は、個別に適期を検討していくことが望まれる。

具体的な防除方法

- ・群落の規模が小さく個体数が多い場合は、他の生物に対しての影響が小さい手作業で除去する。根茎が残っていると容易に再生するため、根の抜き取りや表土ごと掘り取るようにする。
- ・個体数およびバイオマス（植物体の量）が多く大きな労力が必要となる場合は、刈り払い機等により地上部の刈り取りを行う。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄する（各自治体の基準に従う）。



除去した植物体の袋詰め

【主な防除方法】

区 分	方 法	概 要
物理的 防除	抜き取りによる除去	・手作業により根ごと抜き取る。またはスコップや根掘り等を用いて表土ごと掘り取り除去する。根は 20cm 程度と浅く比較的抜きやすく、技術的に実施が容易。 ・根茎から再生するため、できるだけ土中に残さないよう留意する。 ・種子が飛散しやすいため、抜き取った個体はすぐに袋に入れ、飛散を防止する。 ・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。 ・1 度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数年継続する必要がある。
	刈り取りによる除去	・カマや刈り払い機で地際から刈り取る。 ・種子が飛散しやすいため、刈り取った個体はすぐに袋に入れ、飛散を防止する。 ・抜き取りによる除去に比べ労力を必要とせず、種子による繁殖を抑える効果があるが、根茎が残るため再生する可能性が高い。分布の拡大を抑制することはできるが、根絶は困難。

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(植物の場合は完全に枯死させる必要がある)。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ① 小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ② 防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③ 当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④ 防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・根茎から容易に再生するため、できるだけ抜き残しがないようにする。作業に使用した道具、長靴、刈り払い機などに種子や根茎が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・除去した個体は袋に詰める。種子をつけている場合は、風で飛散することがないように留意する。
- ・再生個体の成長が早いいため、作業後も定期的に確認を行い、再生が認められた場合は直ちに取り除く。

必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き(市町村単独の防除の場合)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束植物 > ナルトサワギク (国立研究開発法人 国立環境研究所)
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81060.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > ナルトサワギク (環境省 自然環境局)
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-04.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf
- ・河川における外来植物対策の手引き (国土交通省 河川環境課,2013)
- ・地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案) (国土交通省 河川環境課,2021)
- ・福岡県侵略的外来種防除マニュアル 2021—福岡県侵略的外来種リスト 2018 における重点対策外来種 20 種— (福岡県,2022)
- ・ナルトサワギク (*Senecio madagascariensis* Poir.), 草と緑 (Weeds and Vegetation Management) 14: 30–39. (黒川俊二,2022)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.181 ナルトサワギク (芹沢俊介・瀧崎吉伸)

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物